

mental Assessment of Current Land Use and Four Settlement Options for Gwaai and Bembesi State Forests. 12) SAREC. 1996. The Ecology and Management of Indigenous Forests in Zimbabwe. 13) World Bank. 1993. Technical Paper Number 210, Living with Trees, Policies for Forestry Management in Zimbabwe.

## 図書紹介

◎社会林業—理論と実践 野田直人著 A5版 126pp 熱帯林造成技術テキスト No. 12 (財)国際緑化推進センター 2001. 3

地域住民による自立的な資源の保全・管理を目指す参加型の開発手法は、現在では国際援助の様々な分野で取り入れられるようになり、森林・林業分野でもこうした開発アプローチに「社会林業」という名称を与え、政府機関や NGO 等による活発な取り組みが進められている。しかし日本では、国際協力に社会林業のような参加型アプローチを取り入れるようになったのは他国に比べかなり遅れてからのことで、実際の協力の現場に派遣された専門家は、主に英語で書かれた文献を参考に取り組むしかない状況におかれてきた。本書はこうした現場の要請に応えるために書かれたもので、開発協力の現場やそれを支援する研究に幅広く活用されていくことが期待される。構成は4部からなっている。第1部では、社会林業における普及の考え方について述べ、従来型の普及と新たな普及とを比較しながら、普及の方法そのものよりも、むしろ地域住民に対する働きかけに重点が置かれるべきという、いわば基本的理念が示されている。第2部では、地域開発プロジェクトなどで世界中で広く採用されるようになってきた参加型開発について概観し、参加型アプローチが現れてきた背景や歴史、考え方、住民に働きかけ自立的活動を促していくためのツール、普及員の役割などが述べられている。第3部は、実務編で、協力事業等で途上国での社会林業にかかわるようになった人々が、どのようなことに留意しながら、どのような手順で社会林業に取り組んでいったらよいかといった事柄について述べている。ここでは、特に地域住民に働きかける際に注意しなければならない、様々な社会的要素が触れられている。第4部は、補論として、社会林業について、理論的問題も含めさらにつっこんで勉強したいと考える人々のために書かれたもので、著者による問題整理と関連する豊富な参考資料が示されている。本書はテキストとして出版されたものであるが、副タイトルにあるように、内容は普及現場での実践的価値と理論的価値をあわせ持つものとなっている。これから任地に向かう人、それを目指す人にとり必読の書である。(加藤 隆)